



『跳ね橋』のモデルは戦災で焼けてしまった。  
今見られるのは新たに別のところから持ってきたものだ

## アルル女性の 美に惹かれたゴッホ

### アルル *Arles*

# 最

初に一つの疑問を案内してくれたガイドに投げかけた。なぜゴッホはアルルを選んだのか。南フランスの気候風土、強烈な太陽の光に魅せられただけなら、特にアルルでなくてもよかっただろう。彼女の答えは明解だった。「ゴッホはアルル女性の美しさに惹かれてここへやってきたのです」。

ゴッホがアルルに着いたのは1888年2月、凍りつくような寒い日で雪も降っていたという。暗いバリから明るい太陽と青空を期待していただろうが、特にこの天気で彼がくじけることはなかった。しかし外に出て絵を描けなかったため、アルルでの最初の作品は、借りた部屋の窓から見た向かいの肉屋だった。

今その家はないが、場所はラ・マルティエヌ広場からカヴァリリ門に入り、正面噴水のある建物で二股に分かれた右アメデ・ピシヨ通りを入ったところだった。通りの名は当時から変わらない。

実際アルルで暮らしたのは14か月だったが、その間200点の作品を描いている。その後サン・レミの精神科病院に移り、1890年に自ら死を選ぶまでの間に150点。37年の生涯で850点の油絵を残したとされるゴッホだが、その半に近い作品をアルル周辺で過ごした、たった2年ちよつとで描いたことになる。

アルルの町では今も多くローマ遺跡が見られる。カエサルが、ローマのマッサリア（現在のマルセイユ）攻略を助けたアルルのため、この地方の中心都市と定めたこ

円形闘技場のてっぺんから見たアルルの街並みとローヌ川。  
きっとゴッホも一度はこの風景を見たに違いない





左 / かつて病院だったエスパス・ヴァン・ゴッホ 右 / ローマの遺跡、円形闘技場

## Arles

とで栄えたからだ。しかしこれらの遺跡も中世の宗教芸術、教会もゴッホの気を惹くことはあまりなかったようだ。円形闘技場を描いた作品はあるが、プロヴァンスでも屈指の美しさといわれる市庁舎そばのサン・トロフィム教会正面を見た彼は、その装飾過多を「中国的」と酷評している。すでによく知られたことだが、ゴッホもジャポネズリ（日本趣味）だった。モネも多くの浮世絵を集めていたが、ゴッホは広重の風景描写が好きだったようだ。単純で研ぎ澄まされた構図をよしとしていれば、当然こたごた、こつこつしたものは好まなかっただろう。

こんなエピソードが残っている。

アルルに着いてすぐ、春を告げるアーモンドの木に花がいつせいに咲いたとき風が来た。花びらを雪のように舞わせたその光景に、彼は日本を思ったという。実際アー

サン・レミッド・プロヴァンス郊外にある精神科病院。ゴッホは自ら希望してアルルからここに移った



右 / アルタン博物館では当時のアルル女性の美しさが実感できる  
左 / フォーラム広場にある「夜のカフェテラス」説明プレートとその場所





右/市庁舎からフォーロム広場周辺は古いままのアールが残っている  
 中/1830年に造られた夏の庭園。ゴッホはここも描いている 左/ゴッホとゴーギャンも歩いたアリスカン

モンドの白に近い薄ピンクの花は日本の桜に通じる美しさがある。彼の好きな広重の世界をそこに見たようだ。これも彼がアルを気に入った理由の一つでもある。

先に、彼が最初に住んだ家はないと書いたが、実際にゴッホが見たアルル、彼が住んだ当時のアルルは、あまり残っていない。なぜならアルルは第二次世界大戦中、プロヴァンスで唯一連合軍の爆撃で被災した町だったからだ。

『夜のカフェテラス』と題された作品が2点ある。1点はカフェの外観。もう1点は少し疲れたような人がいる内部を描いている。前者は今もフォーロム広場にあり、いつも観光客の姿が絶えない。昔から周囲にはホテルがあり、外国人も多かったという。後者のモデルは別のもっとポピュラーな地区、画家が暮らした家のそばにあった。最近、見学用にゴッホの部屋を模したところがあるが、実際彼がゴーギャンの到着を待った最後の住まい「黄色い家」は爆撃で焼けてしまった。今も鉄橋が見えるラ・マルティニーヌ広場の一角にその家と、先のカフェがあった。ゴッホはここでゴーギャンのために部屋を飾るのに、「ひまわり」を描いたのだ。

ゴーギャンとの悲劇的な結末は今さらここで触れるまでもないが、その前に2人で絵を描きに行った町の中心から少し離れたアリスカン（ローマ墓地）は、訪れる人も少なくまったく変わっていないかのように思われた。またアルルを通り地中海へと流れるローヌ川も、『星降る夜』で描かれたままに悠々と時代を超越している姿が印象的だった。

右/ゴッホに酷評されたロマネスクの傑作、サン・トロフィーム教会正面  
 左/この古い噴水のある建物のパーが面しているのがアメデ・ビショ通り

アルル郊外のモンマジュール修道院跡。  
 ゴッホはよくこのあたりまで歩いてきて小麦畑を描いた

